

# 紫波木町

## ◆特集 「未来」へのアプローチ

～紫波みらい研究所設立&紫波町環境探検隊～



元気人・登場!

熊谷知栄子さんから  
地場産品を使った商品開発

# 地

# 頼

る

8月号  
NO.581

現在の清酒の商品開発は容器を中心にしたものが多くなっています。これは全国的に清酒の消費量が減っていることと、昔のように一升瓶で飲むことが少なくなっているためだと思えます。そうしたパッケージデザインも重要ですが、もう一つ、中身の開発も欠くことができないでしょう。基本的には水と米が原料ですから、そこにどんなこだわりを持つかというのにも必要になると思います。例えば当社では、兵庫県龍野市で栽培されている紫黒米を原料にした玄米ワイン「夕やけロマン」を平成十三年から販売しています。これは米自体が赤く、その色を生かしたお酒なんです。地元の期待も大きいですね。「夕やけロマン」という名前も二十通の応募から決定したもので、地元出身の童謡「赤とんぼ」で知られる三木露風にちなんだ名前となっています。紫波町にも酒造好適米の「吟ぎんが」や、特産のラ・フランスなどを生かしたこだわりのお酒造りが必要になると思うんです。

(七月二十日 蔵女性サミットで)

◆くまがい・ちえこ 農学博士。酒造メーカーの大熊(株)常務取締役でもあり、自ら先頭に立って作った「熊谷流大吟醸 知栄子」など商品研究と開発を手がける



町の環境について考え、行動する団体「紫波みらい研究所」が七月十九日に設立されました。環境を中心に生命や物を大切に循環型まちづくりを推進する町にとって、紫波みらい研究所は子どもから大人まで町民や企業、行政のネットワークの拠点となり、広く環境のための研究や活動を行う心強い団体です。二十日には親子で町の環境のすばらしさを体験する環境探検隊の活動が、紫波みらい研究所のメンバーも参加して行われました。

今月は紫波みらい研究所の活動についてお知らせします。

# 「未来」へのアプローチ

特集 紫波みらい研究所設立 & 紫波町環境探検隊

## 町民主体のみらい研究所 所長に高橋力さん

紫波みらい研究所は、公募で選ばれた七人の有機資源循環推進委員や各団体の代表をはじめとする町民の皆さん二十四人が発起人となり、七月十九日発足しました。会では研究所についての説明のほか、初代の所長に高橋力さん（中島、副所長には瀬川智子さん（日詰）、菅原和博さん（山屋）、阿部礼子さん（星山）が、それぞれ選ばれました。紫波みらい研究所では百年後の子どもたちに、豊かな環境を残し伝えるための研究

や野外活動など、今後さまざまな活動を行う予定です。

また引き続き行われた、えこ3ぶらんフォーラムの成果報告会には、環境計画部、えこ3ぶらんセンター計画部、有機資源計画部、フルーツパーク計画部の四つのフォーラムの参加者約四十人が出席しました。えこ3ぶらんセンターの計画や環境・循環基本計画など、それぞれの部会の活動の成果が報告され、えこ3ぶらんフォーラムの発展的な解散と新たに町民主体の紫波みらい研究所の設立を確認しました。



## 「紫波みらい研究所」の 発足にあたって 紫波みらい研究所 所長 高橋 力

二〇〇一年七月十九日、皆さま待望の紫波みらい研究所が発足いたしました。その会は感動、感激の連続でありました。町内外に所期の情報を発信するとともに「知ろう 話そう 行動しよう」の実践活動に入ることになったのであります。「ひと、こころ、いのちの和で育む、ゆたかな未来」を開発せんとする発想が基本理念であります。百年先の豊かな未来に向け、望ましい、理想的にして魅力的なユートピアを伝えていこうということ。そのためには循環型社会の構築と実現のための活動が求められますが、藤原町長さんをはじめとする行政サイドと町内外の皆さま方のご指導ご支援を賜りながら、汝自らも長続きのする研究所の望ましい在り方を探って参りたいと念じ

ております。

発足会の翌日に行われた探検隊に参加した大人の皆さんや子どもさんたちは明るく元気いっぱい意欲的な探検となりました。参加した子どもさんたちの感想は「もっともっと自然を知りたい。次の会にもぜひ参加したい」との前向きなものばかりでした。当然のことながら講師、助言者の助言も極めて有効適切なものであったのです。できることからやり始め、少しずつ積み重ねながら範囲を広げ、これこそが「みらい研究所」だと自他ともに評価できるものにして参りたいと覚悟を新たにしておりますので、皆さまの深いご理解とご声援、加えてご参加を切にお願い申し上げます、ごあいさついたします。



紫波みらい研究所の設立会（上）とえこ3ぶらんフォーラムの成果報告会（下）。左はえこ3ぶらんフォーラムの生内邦雄会長



## 紫波みらい研究所の活動内容の構想案

問合せ 紫波みらい研究所（企画課内）  
☎672-2111 内線322・324

### 紫波町版の環境学習

#### プログラムの構築と推進研究

- 紫波地元学を通じて世代間、地域間の交流
- シルバーの経験、匠の技術の伝承プログラム構築と推進研究
- 循環マイスター制度の確立（昔の農家の暮らし方から学びながら循環の町づくり）
- エコバックの普及活動

### 森林資源循環の調査研究

- 森林資源活用による調査研究
- 間伐などによる森林整備の調査研究
- 町産材利用促進のための工

### 法研究と確立研究

- 里山（標高500m以下）の保全活動方法の研究促進

### 環境探検隊の活動事業促進

- 紫波町版レッドデータの収集（生物マップの検証、補充、公表）
- 湧水、水辺環境の調査、水辺創造
- 千年の森計画

### 紫波町版環境経営

#### システムの調査研究

- 環境家計簿の普及促進
- 行政版環境会計システムの導入

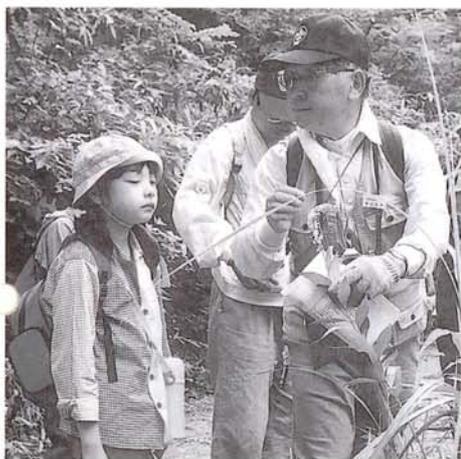
# 第二回「環境探検隊」が行く!

紫波みらい研究所設立翌日の七月二十日には、第二回紫波町環境探検隊が、野村胡堂・あらえびす記念館周辺の山と川で行われました。環境探検隊は昨年行われた環境イベント「環境新世紀」でも好評だったもので、当日は天候にも恵まれ山歩きコースに十六組四十三人、水辺コースに十八組五十二人の親子が参加しました。それぞれのコースでは班ごとに地元の人の案内で、指導員の説明を受けながら植物や生き物の観察を行いました。

## 身近な植物を確認しながらヤッホーお山歩きコース

①「葛湯や葛きりはこのこれから取るんだよ。クズはとっても丈夫なんだ」と多田友夫さん。子どもたちはメモしたり、実際に両端を持って引き、なかなか切れないことを確認しました。

②良い香りがするというトラノオに顔を近づけ確認。「人間は動けるけど、植物はそこししか住めない。だから採ったらいけないよ」という多田さんの話が印象的でした。「植物は酸素の製造を一手に引き受けているんだよ」の言葉に皆で深呼吸。



⑦「ヤッホー」黒石山の展望台。心地よい風を受け、町を一望できるすばらしいスポットです。大正園が遠く感じます。「見える所はもう近いんだ」という同行の人の声を合図に、さあ出発。少しお腹もすいてきました。





⑤「冷たい!」ウリハダカエデに触ってみました。落ち葉でフカフカのじゅうたんのような山道を歩いて30分程、少し汗ばんだ体にウリハダカエデの木の表面はなめらかで、ヒヤッと心地よい感触です。

⑧山道を下る途中でサンショウを発見。「ウナギの日も近いな」と言いながら、前から順番にサンショウの匂いを確認、後の人に手渡しました。



大正園



③「みんな朝顔の観察をしたことある? 支柱にくるくるツルが巻き付くよね」小野昭夫さんが右巻きや左巻きといったツルの巻き方の説明。巻き方が途中で変わるヘチマの話も。熱心に耳を傾けていました。

④「こうして倒れた木はシロアリが分解するんだよ。家に寄生すると大変だけど、山には必要なもの」倒れている木を割って、シロアリを見ました。

山歩きコースは15人ほどの三つの班に分かれ、案内の地元の人や指導員と野村胡堂・あらえびす記念館を出発しました。参加者は指導員の説明に熱心に耳を傾け、受付で渡されたガイドブックに書き込んだり、実際に触ったり、間近に顔を寄せ、熱心に観察していました。

⑨「チドメグサ、これは自然の救急ばんそうこうだよ」という高野修さんの声に、みんな手でベタベタはってみました。



⑥出発して約40分で黒石山の登り口に到着。ここからいよいよ登山コースに。登り口で見つけた野いちごをつまんで「すっぱい」。登山前の腹ごしらえになったかな。



⑩山道を下った所にある小さな「たな田」の「せき」にはオタマジャクシもいました。「山にはこの時期でもまだオタマジャクシがいるんだな」という懐かしそうなお父さんの声も。

### 参加者の感想から

参加した子どもたちには受付で二枚のハガキが手渡されました。一枚は紫波町探検隊に参加しての感想。もう一枚は探検隊で興味をもったことをテーマを決めて調べようというもの。もうすでに感想のハガキが続々到着しています。その中からご紹介します。

#### ヤッホーお山歩きコース

菅原大嗣くん (古館小二年)

とても楽しかった。山に登って虫とか花をいっぱい見ることができてよかった。次も参加して、もう少し花や木を調べたい。

#### ジャブジャブ水辺コース

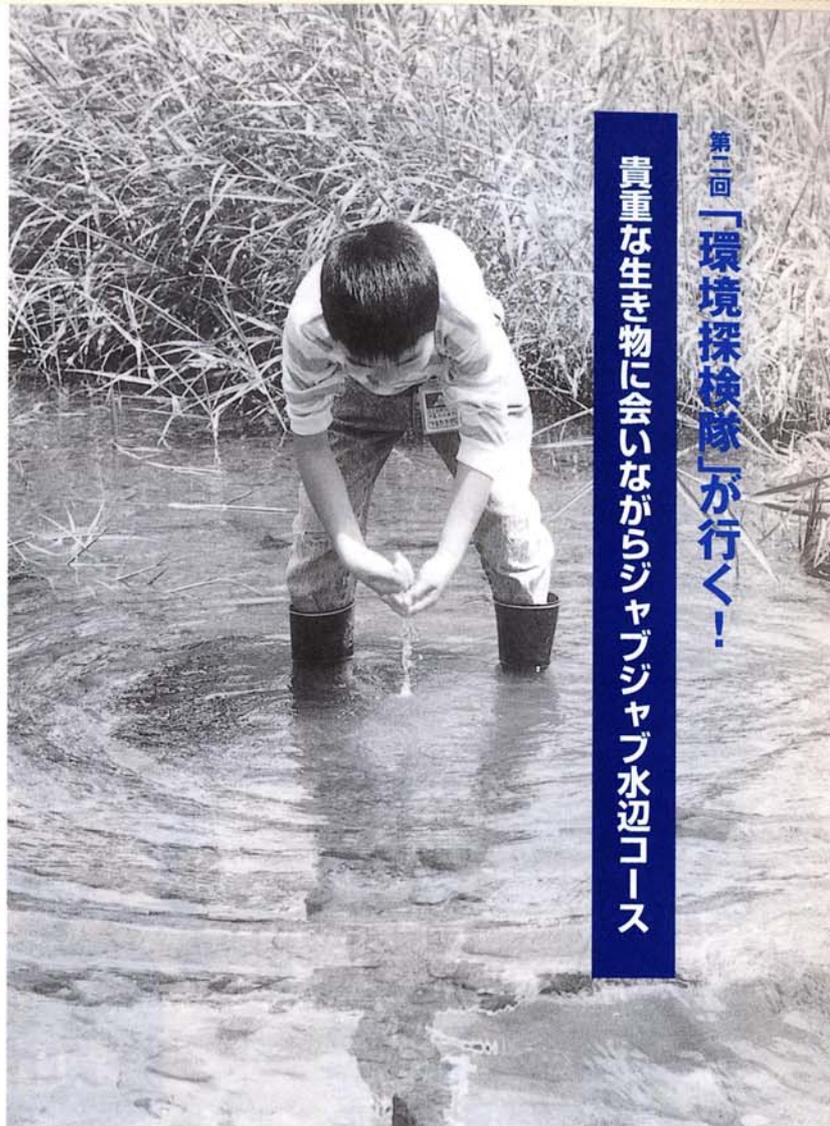
加藤晴菜さん (古館小四年)

セミのぬげがらも見れたし、本当の沢に行つてサワガニやでっかいアカガエルも見れておもしろかったです。自然の中で昼ご飯も食べれて良かったです。

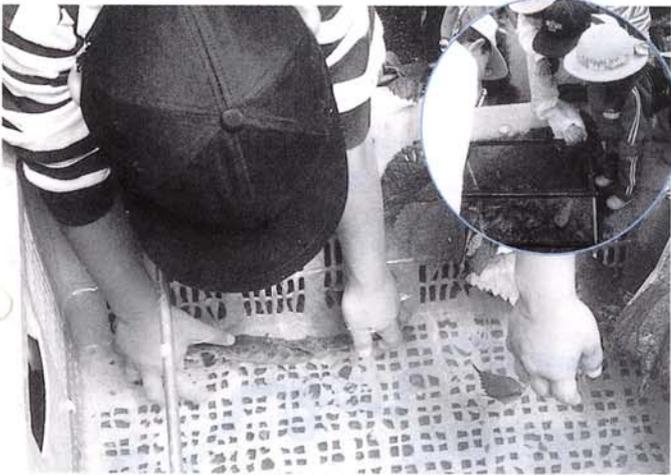
※そのほかにも「去年より楽しかった」「ゲームが楽しかった」「豚汁がおいしかった」などのハガキが届いています。

第二回「環境探検隊」が行く！

貴重な生き物に会いながらジャブジャブ水辺コース



① バスで移動した先は火石沢にある石川喜一さんの家の近く。「こちら辺はホタルも飛びますし、これから案内する沢にはサワガニがいるんですよ」という石川さんの説明に皆ワクワク。



② 沢に移動する前に、石川さんが採っておいけてくれたというサワガニを観察。さらにヤマメまで用意しておいてくれて、子どもたちは大はしゃぎ。元気なヤマメを手づかみしようとしてもなかなかうまくいかない様子。

山と川の自然観察の後はトーク&ゲーム

山歩きと川での観察を終えた探検隊は、大正園に集結。ここで「日本野鳥の会」会員の藤原敦男さん（小屋敷）の鳥に関する興味深いお話を聞きました。その後は待ちに待った昼食タイム。できたての豚汁も配られ、あちらこちらから「おいしい！」の歓声が聞こえました。お腹もいっぱいになり、一休みした後は、「日本ネイチャーゲーム協会」の皆さんによるゲームが行われました。

野鳥の説明は藤原敦男さん

日本野鳥の会の会員でもある藤原さんは、用意してきた野鳥の絵を子どもたちに見せながらカラスやキビタキ、ヒヨドリ、キジバトなどの生態についてお話ししてくれました。子どもたちは時折、鳴き声に耳を澄ましながら、「鳥の声が聞こえたら確かめてみることで知識が広がる。また鳥とうまく暮らすにはどうするか考えることも大切。考えることで町の自然をより良くすることができ、みんなの生活も楽しくなる」という藤原さんの話に、熱心に耳を傾けていました。



自然と親しむネイチャーゲーム

昼食後は箱崎明美さん（日詰）と、日本ネイチャーゲーム協会のお仲間である谷藤長利さん、布澤文理さんによるゲームが行われました。箱崎さんたちが準備してきたのはフィールドビンゴゲーム。渡されたカードには「足あと」「くもの巣」「実のなるもの」「匂いがするもの」「ぬけがら」などの項目があり、発見したものをチェックしていきます。できるだけたくさん発見しようと、みんな木に登ったり、かがみこんだり一所懸命でした。



\*ネイチャーゲームとは  
ゲームを通して、楽しみながら自然とふれあう活動。自然に対する特別な知識がなくても、子どもと大人と一緒に自然を共有できます。



④ ついに目的のサワガニを捕まえて得意げなポーズ。普段なら通り過ぎるだけの幅数十センチの沢が、宝のありかになった瞬間です。ちなみにサワガニは清流にしか住まず、一生をその場所で過ごします。



⑥ 沢から徒歩で移動して赤沢川へ。用意されていた水槽には、天然のヤマメ、イワナ、アユなどが泳いでおり、その美しさにしばし見とれるのでした。もちろんこれも前日からスタッフがこの日のために釣った成果です。

⑤ ゲンジボタルの幼虫のえさとなるカワニナ（巻き貝）を見つけた子ども。「ホタルが見たいねー」の声も聞かれました。



③ 田んぼや畑の間を通り抜け、目的の沢へ。お父さん、お母さんが沢をおおう草を刈り、その後に子どもたちが沢へ。徐々に上流へ移動するはずが、サワガニ探しに夢中の子どもたちはその場を離れようとしません。

## ジャブジャブ 水辺コース



※今回の沢は、所有者にお願いして特別に敷地内を通らせていただきました。



⑨ 最後は石をひっくり返して川虫を観察。ヒラタカゲロウやトビゲラのほか、水質が悪くなってくると増加するヒルも採取。親子できれいな川を守ることの必要性を実感したひとときでした。

水辺コースはバスで火石沢付近に移動。田園風景に囲まれた中で、二班に分かれ観察しました。沢での観察では、清流にしか生息しないサワガニやカワニナを。川では魚とそのえさとなる川虫の関係を説明してもらい、水の汚染を防ぐことの大事さを再発見しました。



⑦ 説明役の菅原善憲さんが水の汚れによる問題を説明。かつて洗剤として使われていたサイカチを手に、「昔の生活には戻れませんが、今のままでは魚たちもいなくなってしまう」と自然の大切さを教えてくれました。



⑧ 説明の後は、用意してもらった竿で釣りにチャレンジ。魚影は見えるのですが、なかなかえさに食いついてくれません。



五月に行われた「いい本選ぶ会」は、図書室で読む本を自分たちで選ぶという初めての企画で、会場の赤石小学校の図書室には親子連れなど多くの人が訪れました。町ではこの時に選ばれた四十五種類、百九十六冊を購入。中央公民館の図書室・胡堂文庫のほか、土曜日の午後に図書室開放を行っている古館小学校、赤石小学校、紫波第一中学校に配置しました。今回は、皆さんの手で選ばれた図書を紹介します。

毎週土曜午後一時から四時まで開放されている古館小、赤石小、紫波一中の図書室には、一般向けの図書も配置されています。今回の企画で購入されたものをはじめ、新しい図書は人気で、予約待ちも多いようです。

また胡堂文庫では、「日本百名山」などのシリーズものやアウトドアや趣味などの資料図書やベストセラー作品、児童図書も随時、購入しています。

初めての人でも、その場で申込書を入しただけであれば、貸出券を発行します。また貸出券は町内の図書室共通で利用することができます。親子で図書室に出かけてみてはいかがでしょう。どうぞご利用ください。

貸し出しは大人一人五冊まで二週間、子どもは三冊まで一週間借りられます。

図書ネットボランティアグループ「ほん太ネット」のメンバーであり、胡堂文庫やかたくり号の仕事も手伝っていた



いている平沢の阿部祐子さんは「子どもたち、親子づれの利用が多いですね。子どもたちはゲーム本などの楽しい本、大人は小説や料理の本、最近人気のガーデニングの本なども借りられますね」と話してくれました。テレビで本のランキングの放送があったり情報があふれているせいか、新しい本の要望も多いとか。図書室と積極的に関わりをもちたいという人たちによる「図書を考える会」の立ち上げも予定されているようです。

## 「いい本選ぶ会」の図書も配置 親子で図書館利用はいかが？

問合せ 中央公民館・胡堂文庫 ☎672-3372 有線01-2922

図書室の机いっぱいになべられた本を一冊ずつ手に取って、熱心に選ぶ姿があちこちで見られました



# 購入された本の一例

## 子どもの権利を買わないで

文・大久保真紀／絵・森野さかな／英訳・スネル博子（自由国民社）



実話をもとに作られた創作絵本。子どもの売春問題、児童労働問題といった世界の貧しい国の子どもたちが置かれた状況を柔らかな絵で伝えています。日本語と英語で書かれ、日本語にはルビがふられています。日本ユネスコ協会連盟推せんの一冊です。



武田鉄矢原作／小山ゆう作画（小学館ヤングサンデーコミックス）

明治維新の志士、坂本竜馬の生誕から暗殺までを描いた作品。原作は歌手、俳優としてテレビや映画で活躍する武田鉄矢さんです。従来描かれたものとは別な切り口から活躍する竜馬像を捉え、とにかく格好いいのです。全23巻。

## 『アジアの心』

絵・文 葉 祥明（自由国民社）



戦争が終わっただけでは平和とはいえません。豊かな自然を取り戻し、それぞれの文化を育んで初めて平和といえるのです。カンボジアやアジア各国の識字教育の教科書にも使われている絵本。平和の文化国際年を記念し出版されたものです。

## あなたがもし奴隷だったら...



### あなたがもし奴隷だったら...

ジュリアス・レスター文／ロッド・ブラウン絵／片岡しのぶ訳（あすなろ書房）

作者はアメリカの児童文学賞ニューベリー賞を受賞しているジュリアス・レスターで、奴隷制度を通して相手の立場にたって考えることの大切さ、人間の身勝手さなど多くのことを訴えています。全ページに描かれているロッド・ブラウンの絵も強烈です。

## 水野葉子のオーガニックノート

水野葉子（星の環会）



作者の水野葉子さんは日本オーガニック検査員協会の設立者。オーガニックとは何か、世界のオーガニックなどについて、だれにでも分かりやすく、読みやすく、エッセイのようにつづられています。漢字にはルビもついているので、小学生でも簡単に読めます。オーガニックレシピもついているので、親子で読んでみてはいかがでしょうか。

## 『森の暮らしの記憶』

マーロン・クエリナド絵／マーロン・クエリナド、清水靖子文（自由国民社）



日本や世界の企業がパプアニューギニアの熱帯雨林を破壊した。作者のマーロン・クエリナドさんのふるさと、ゴゴール渓谷の人々の森の暮らしの悲しい記憶のお話。墨一色の繊細な線で描かれた生き物たち。パプアニューギニアの森と世界の森を未来の世代のためにみんなで守ろうと訴えます。再生紙使用の絵本です。

このほか今回新たに購入し、多数の図書が図書室に並べられました。選んだ人の推せんの言葉をご紹介します。

【台所育児——1歳から包丁を】 坂本廣子（農文協）

【推せんの理由】 自分の子どもが包丁を持ちたがっているのですが、使わせたらよいか迷っていたので。（平沢 Y・Sさん）

【住井すゑ傑作童話選集】 住井すゑ（旬報社）

【推せんの理由】 「橋のない川」で知られる住井すゑさんは九十五歳で亡くなった作家です。その人の少年少女物語に興味をひかれました。（稲藤 Aさん）

【フレネ学校「愛について」】 フレネ学校の子供たち（あすなろ書房）

【推せんの理由】 絵がとってもすてきです。「フレネ教育」というものがどういう教育なのか私も詳しくわかりませんが、今の教育にかけているもののヒントがこの本にはあるような気がします。（紫波中央駅前 K・Aさん）

【手塚治虫キャラクター図鑑】 池田啓晶（朝日新聞社）

【推せんの理由】 手塚まんがは永遠のドラマ。懐かしいキャラクターの新しい魅力に会える本です。「ブット博士」は何のマンガに登場するか？ キャラクターと場面に解説がついています。全6冊。（平沢 Sさん）

【絵で見るある町の歴史】 アン・ミラード（さへら）

【推せんの理由】 千二百年におよぶ町の歴史が見られる時空を越えた本。隠し絵が楽しめる本です。（千葉県習志野市 岸裕司さん）



7月4日の盛岡南ショッピングセンター・ナックスで開かれた「ふれあいミニコンサート」



7月17日の古館公民館で開かれた紫波高校茶道部の皆さんのお点前によるふれあいお茶会

**コンサートやお茶会を通じて呼びかけ  
町内各地で社会を明るくする運動を展開**

七月は社会を明るくする運動の強化月間、町でも保護司会など約二十団体からなる紫波町実行委員会（藤原孝委員長）が中心になり、期間中さまざまな啓

発運動が行われました。七月四日には紫波第一中学校吹奏楽部などが参加し、盛岡南ショッピングセンター・ナックスで「ふれあいミニコンサート」

**ワインと特産品  
地産地消に舌鼓**

紫波町産ワインと地産地消メニューの試飲・試食会が七月三日、ラ・フランス温泉館交流プラザで約四十人が集まり開催されました。試飲したワインは町内で採取した酵母とフルーツが使われ、特産品として商品化を目指し、試験醸造を行ってきたものです。参加者は用意された八種のワインやリンゴ酒と紫波牛や紫波黒豚、豆腐などをふんだんに使った地産地消メニューを味わっていました。



**歌や踊りを披露  
した七夕交流会**

水分児童館の児童三十七人は七月十日、特別養護老人ホーム百寿の郷を訪れ、入所者やデイサービス利用の高齢者約八十人を前に練習してきた七夕の歌や踊りを披露しました。また願いごとが書かれた短冊の飾りつけも行い、入所者らはかわいい訪問者たちとの七夕交流で楽しい時間を過ごしました。

ト」が開かれ、ホールには買い物客など約二百人が詰めかけ、すばらしい演奏を楽しみました。また十七日には古館公民館で地区の高齢者や古館保育所、古館こども家の児童など約百五十人が集まり、紫波高校茶道部の皆さんのお点前

**記録を競い自転車  
の良さを満喫**

第二回サイクルチャレンジ大会は七月十五日、約五十人が参加し自転車競技場で開催されました。参加者は、それぞれ自転車を持ち寄り、家族らの声援を受け、幼児、小学校、中学校、一般などの部門ごとに、記録を競いました。



による「ふれあいお茶会」がなごやかに開催されました。社会を明るくする運動は犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生についての理解を深めることを目的に行われている全国的な運動で、今年で五十一回目となります。

## はしらすとこい やま莊まじり

第十二回にいやま莊祭は七月十四日、同荘で開催され、各種展示や屋台のほか、さんさ踊りのアトラクションも行われ、訪



## 約百人が車いす ダンスに挑戦

町連合婦人会(瀬川智子会長)が主催するウーマンリフレッシュユフェスタは七月十四日、町内の婦人約百人が参加し、総合体育館で開催されました。今年は一関市の岩淵慶子さんの指導で、初めて車いすダンスに挑戦。参加者はゆったりとした音楽に合わせて体を動かす、なごやかに交流が繰り広げられました。



## 記録更新めざし 水しぶき

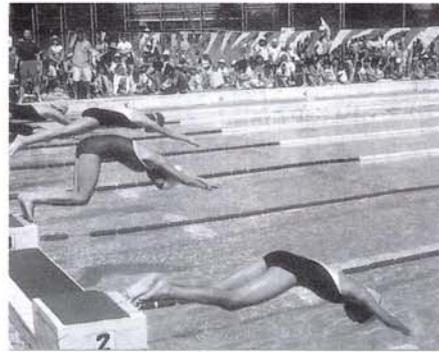
町小学校体育連盟が主催する第十八回小学校水泳記録会は七月二十六日、町内各小学校の五、



## 活発に情報交換 蔵女性サミット

北は青森県から南は山口県まで酒造業に携わる女性約三十人が一堂に会し、七月二十日と二十一日の両日ラ・フランス温泉館湯楽々を会場に第三回蔵女性サミットが開催されました。大関(株)の熊谷知栄子さんの基調講演のほか、討論会が行われました。参加者は活発な情報交換を行い、一年後の再会を約束していました。

六年生約三百人が集まり、紫波第三中学校プールで開催されました。出場選手は新種目の百メートル自由形など十九



## 小学生が八戸藩 ゆかりの地訪問

八戸市内の小学六年生四十四人と引率の教師が七月二十五日、八戸藩ゆかりの地訪問のため、町を訪れました。これは江戸時代に町が八戸藩の飛び地であったという歴史的なつながりを大切に交流していることと三年前から行われているものです。



種目に、児童や父兄らの声援を受けながら、記録の更新を目指し、水しぶきを上げていました。

一行は歓迎式の後、そば打ち体験や伝承芸能などで町の人と交流。志和稻荷神社や八戸藩志和代官所跡地などゆかりの地の見学を行いました。

## 彦部中学校跡地に 記念碑建立

彦部中学校史編さん委員会(佐藤嘉吉委員長)は校史発行

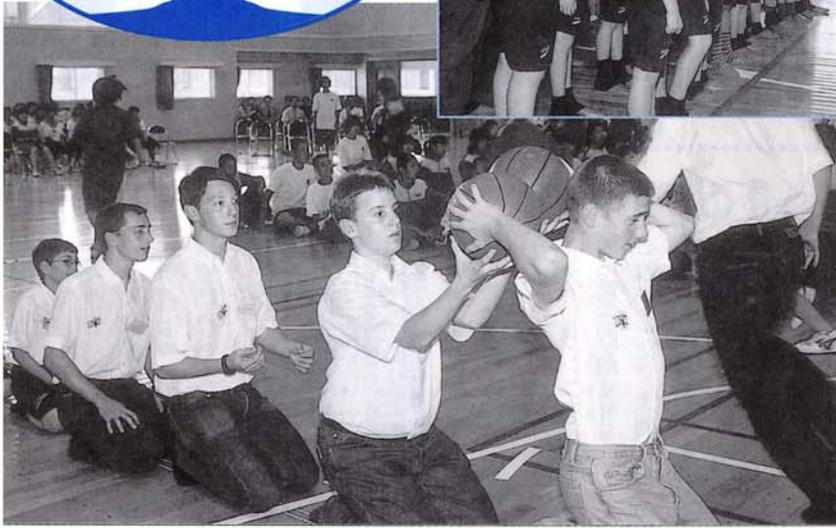
の記念に中学校跡地に石碑を建立しました。七月二十二日には記念碑前で式典が行われ、同窓生や関係者が見守る中、記念碑の除幕が行われました。

## 歌やゲームで中学生と楽しく交流 ウィーン・シューベルト少年合唱団

日本公演のため来日中のウィーン・シューベルト少年合唱団を迎え、七月二十四日紫波第二中学校で交流会が行われました。八歳から二十歳までの団員



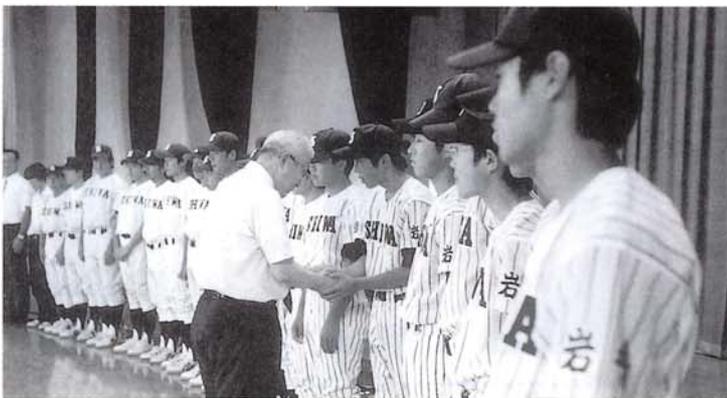
と引率者など三十一人は、生徒会が中心となって企画した歌やゲームに参加し、楽しい時間を過ごしました。二十五日まで滞在した一行は町国際交流協会主催の歓迎夕食会や洋ナシ畑やあぜ道の散策、野村胡堂・あらえびす記念館の見学など、町の自然や文化にふれながら、交流を深めました。



## 四十二年ぶりの快挙 紫波一中野球部県大会優勝

紫波第一中学校野球部（赤川達也主将、二十一歳）は大船渡市で行われた県中学校総合体育大会軟式野球で見事優勝を決め、七月二十五日、報告のため川村秀彦教育長を訪問しました。軟式野球での県大会優勝は昭和三十四年大会以来の快挙。各県の代表校が集まる東北大会は八月七日から秋田県平鹿町で開催されます。

そのほかの同大会の結果は次のとおりです。（敬称略）



柔道団体男子二位 紫波一中  
柔道個人男子 六〇キロ級二位 三上貴彦（紫波一中）  
七三キロ級三位 小塚康章（紫波一中）  
九〇キロ超級三位 福田千尋（紫波一中）  
水泳飛び込み学校対抗一位 紫波一中  
一メートル飛び込み一位 三メートル飛び込み一位 高飛び込み一位 久慈博美（紫波一中）  
陸上 三年男子一〇〇メートル一位 佐藤直己（紫波三中）



## 二年ぶり消防操 法競技会

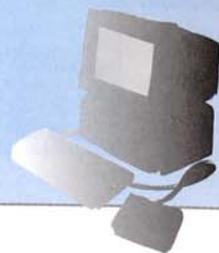
町消防操法競技会が七月二十二日、北上川河川敷の消防操法練習場で開催されました。これは訓練成果を発表し、消防技術の向上と士気の高揚を目的に二年に一度行われているものです。競技はポンプ車の部と小型ポンプの部に分かれて行われ、出場した十八隊のメンバーは、練習の成果を存分に発揮していました。

結果は次のとおりです。  
ポンプ車の部 優勝 第四分団第二部（志和）  
小型ポンプの部 優勝 第五分団第一部（志和）

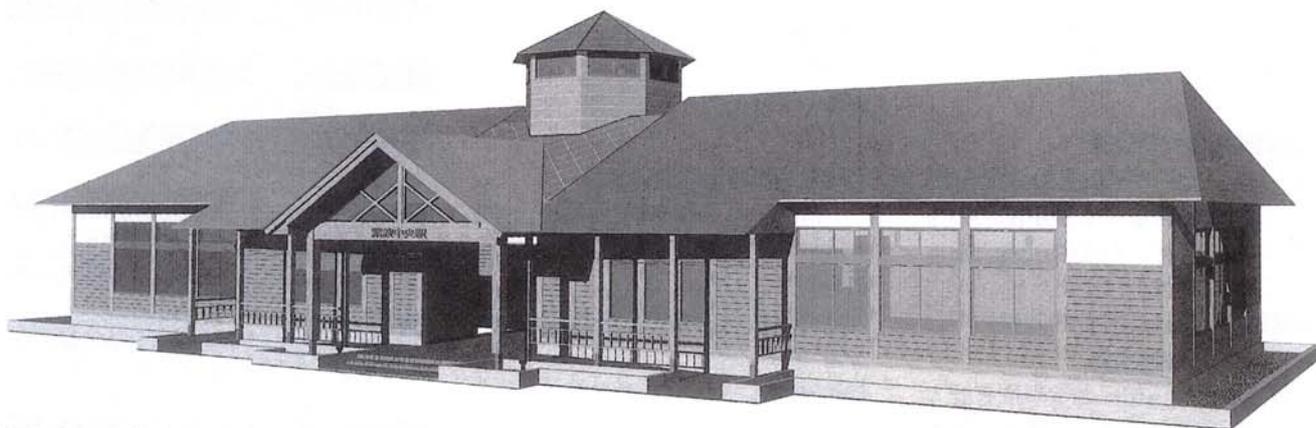




# 情報



## 地元の森林資源を活用し建設開始 紫波中央駅に待合施設



紫波中央駅待合施設の建設が、6月の定例議会で議決されました。

循環型のまちづくりを推進する町では、新しい待合施設を国の林業構造改善事業を導入し、間伐材利用モデル施設として建設します。また間伐材のほか江柄地区の樹齢約120年のアカマツや町有林のスギなど、すべて町産材を活用し、町の人の手で加工、在来工法による建設を行います。このように森林資源循環への取り組みは古館こどもの家に次いで2件目の公共施設となります。

施設の位置は現在の入り口部分よりやや南、こ線橋とロータリーの間で、正面入り口からホームまではバリアフリーになっています。中央は自由通路で南側に約40人の利用

が可能な待合室、北側には物産などの展示ギャラリーも設けられ、列車のほかバスなど総合的な待合施設としての利用が期待されています。

新しい待合施設は延べ床面積279,89平方メートル、建築面積319,28平方メートルの木造平屋建て、総事業費は約7,600万円で、11月の完成を目指します。

今年度はさらに消防屯所の建設に、町産材を活用した森林資源循環の推進が予定されています。

工事中は、利用される皆さんに大変ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

【問合せ】 都市計画課建築住宅係

☎672-2111 内線525 有線01-8831

### 平成13年度岩手県介護支援専門員 実務研修受講試験のお知らせ

県長寿社会振興財団では、介護保険制度において、重要な役割を担う「介護支援専門員」の実務研修受講試験を次のとおり行います。

【試験日】11月11日(日)

【試験会場】岩手県立大学、盛岡大学

【受験手続】①受験申込書は町保健センター介護保険係、町在宅介護支援センター(平次会館内)・地方振

興局でお渡ししています

②9月10日(月)～18日(火)の間にお申し込みください

③受験資格は保健、医療、福祉分野で5年以上かつ900日以上(一部10年以上かつ1,800日以上)の実務経験を有する人(詳しくは試験案内をご覧ください)

【問合せ】(財)岩手県長寿社会振興財団☎626-0196

### 介護支援専門員受験者へ 受験支援講座を開設

県高齢者福祉生活協同組合では、11月の介護支援専門員(ケアマネージャー)の受験予定者を対象に受験支援講座を開設します。

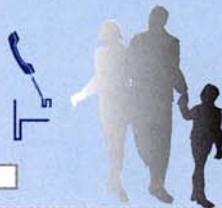
【受講日】9月22日(土)～23日(日)

【募集定員】120人(定員になり次第締め切ります)

【受講費用】13,000円

【会場】岩手県立大学

【問合せ・申込】岩手県高齢者福祉生活協同組合☎653-5830



## 第35回を迎える 紫波町芸術祭の参加募集

今年で第35回を迎える紫波町芸術祭の展示部門の作品と舞台部門の出演団体を募集します。

### ○展示部門の作品公募

11月2日(金)～4日(日)の3日間、中央公民館で開催する展示部門の作品を公募します。右表の規格に沿ってご応募ください。

**【応募資格】** 町内に在住か勤務している人、または町出身者

**【応募方法】** 申込書に必要事項を記入して10月5日(金)までに中央公民館か各地区公民館に申し込み(申込書は、団体用と個人用の2種類があり、中央公民館・各地区公民館にあります)

**【作品の搬入日】** 団体/10月31～11月1日 一般/10月29・30日

**【参加資格】** 11月5日(月)午前中に

作品返却

**【その他】** 不慮の災害による出品作品の損害については原則として、責任を負いませんのでご了承願います。

### ○舞台部門の出演団体公募

11月18日(日)午前10時から中央公民館で開催する舞台部門の参加団体を公募します。

**【参加資格】** 日本舞踊、新舞踊、三曲、洋舞、詩吟、吟舞、大正琴、箏曲、謡曲

**【参加資格】** 町内で活動している団体(個人での参加はできません)

**【申込方法】** 申込書に必要事項を記入して10月5日(金)までに中央公民館に申し込み(申込書は中央公民館にあります)

**【申込方法】** 中央公民館

☎672-3372 有線01-2922

種別(出品点数)・規格・体裁
書道(1人1点)
半切以内、額装か軸装
日本画(1人1点)
50号以内厚さ10cm重さ5kg以内
洋画(1人1点)
50号以内厚さ10cm重さ5kg以内 (デザインも含む)
水墨画(1人1点)
半切以内、額装か軸装
写真(1人1点)
全紙以下、パネルか額装
工芸(1人1点)
展示可能な体裁
ちぎり絵(1人1点)
50号以内厚さ10cm重さ5kg以内
パッチワーク(1人1点)
縦・横・高さの合計2m50cm以内
文芸(1人1点)
色紙・短冊など展示可能な体裁 (俳句、短歌、川柳、詩)
盆栽(1人1点)
展示可能な体裁
菊花(1人5点以内)
展示可能な体裁
華道(1社中7点以内)
流派の制限なし(各社中でまとめる)
その他(1人1点)
展示可能な体裁

## 初心者にも親切に指導 全8回の尺八講習会

紫波町尺八同好会では次のとおり初心者向けの尺八講習会を行います。

**【対象】** 尺八初心者(男女問わず。親子、小・中・高校生も可) ※練習用尺八は無料貸出。講習会終了後、修了証を交付

**【会費】** 無料

**【会場】** 中央公民館

**【問合せ・申込】** 高橋瑞郎さん宅(事務局) ☎672-3884(日話西)

希望コース	日程
土曜日 午後コース	9月1日(土)～10月13日(土) / 毎週土曜(全7回) / 午後3:00～午後4:30
土曜日 夜間コース	9月1日(土)～10月13日(土) / 毎週土曜(全7回) / 午後6:00～午後7:30
日曜日 夜間コース	9月2日(日)～10月14日(日) / 毎週日曜(全7回) / 午後6:00～午後7:30

## 法務局の登記・供託 インフォメーションサービス

盛岡地方法務局では、現在インターネットなどによる「登記・供託インフォメーションサービス」を行っています。このサービスは、登記所・供託所の管轄案内や不動産登記手続、商業登記手続、登記簿謄抄本・証明書の交付請求手続のほか供託制度、各種供託の申請手続および払渡請求手続などに関する情報や質問にお答えするもので、自宅や事務所から簡単に情報を得ることができるとのことです。お気軽にご利用ください。

### インターネットでのご利用の場合

ホームページ(<http://info.moj.go.jp>)にアクセスし、所定の個所に情報番号を入力すると、情報を見ることができます。なお、情報番号など詳しい内容についてはお近くの法務局へご連絡ください。 ※電話・ファックス・携帯電話(iモード)による利用のご連絡も受け付けています。

**【問合せ】** 盛岡地方法務局 ☎624-1141 / 紫波出張所 ☎672-2420

## 愛犬家の皆さまへ 東北電力からのお願い

【安全なメーター検針にご協力を】

検針員が犬にかまれる事故が多発しています。愛犬はメーターから離れた場所へつなぐようお願いいたします。また鎖のゆるみや首輪の損傷なども点検をお願いします。

【問合せ】東北電力(株)盛岡営業所 ☎653-2111

覚えてください  
災害時の声の伝言板

災害用伝言ダイヤル

忘れて  
**171** 災害伝言

阪神・淡路大震災の教訓をふまえ、NTTでは災害に強い通信システム「災害用伝言ダイヤル171」を提供しています

「災害用伝言ダイヤル171」は被災地域内とそのほかの地域の皆さんとの「声の伝言板」です。「171」をダイヤルすることで、被災地の人へ録音した安否などの情報を聞いたり、被災地の人へのメッセージを送れるものです。ご利用にあたっての契約などは一切不要です。「災害用伝言ダイヤル171」の提供開始などの情報はテレビ・ラジオ・ホームページ【<http://www.ntt-east.co.jp/voiceml/>】などでお知らせします

【問合せ】NTT東日本岩手支店 ☎625-4443

## 「心の輪を広げる体験作文」を募集 「障害者の日啓発ポスター」

県では、障害者に対する県民の理解を深め、すべての人が共に生きる地域社会づくりの促進のために、心のふれあいをテーマにした「心の輪を広げる体験作文」と「障害者の日啓発ポスター」を募集しています。

【募集期間】9月5日(水)まで

【問合せ・申込】岩手県保健福祉部障害保健福祉課 ☎629-5447 (盛岡市内丸10-1)

### 「心の輪を広げる体験作文」

【テーマ】出会い、ふれあい、心の輪～学校、職場、地域であなたの体験を広げよう～

【募集区分】小学生部門、中学生部門、高校生・一般部門の3部門

【募集内容】小学生と中学生部門は400字詰め原稿用紙2～4枚、高校生・一般部門は同4～6枚程度(原稿用紙はB4版縦書きの400字詰め原稿用紙を使用)

### 「障害者の日啓発ポスター」

【テーマ】障害者または障害者施策に関する理解と協力を促進する内容

【募集区分】小学生部門、中学生部門の2部門

【募集内容】原則として画用紙B3版(横364mm×たて515mm)か四つ切り(横382mm×たて542mm)をたてに使用(これ以下の場合前記の用紙サイズに貼り付ける)。色彩・画材は自由。

## 「ふれあおう 心と心」 ふくし事業団フェスタ 2001開催

社会福祉法人の岩手県社会福祉事業団と盛岡市社会福祉事業団では、社会福祉施設の利用者の活動の成果を発表し、交流と県民の理解を深めるため、「ふくし事業団フェスタ2001」を開催します。当日は作品展示や舞台発表のほか、農産物・手工芸品・木工品などの展示即売やポニー乗馬・ニュースポーツ体験などが行われる予定ですので、お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

【開催期日】9月29日(土)～30日(日)、午前10:00～午後4:00

【会場】ふれあいランド岩手(盛岡市三本柳)

【問合せ】岩手県社会福祉事業団事務局 ☎662-6851

## 「届出済証」が貼付られている はかりを使用していませんか？

「届出済証」のシールが貼られているはかりは、取引・証明に使用できる期限が10月31日までになっています。

11月1日以降も取引証明に使用する場合は、都道府県などが行う検定を受けて合格しなければなりません。

この検定を受ける場合には10月31日までにメーカーおよび修理業者などを通じて県計量検定所に申請をして受検することになりますので、もう一度使用中のはかりをご確認ください。

【問合せ】岩手県計量検定所 ☎635-6694

## 助成金 今こそ使って 人材確保 中小企業の人材確保を応援中

雇用・能力開発機構岩手センターの中小企業雇用創出人材確保助成金をご存じですか。これはこれから創業、異業種進出をはかる事業主の皆さんのために、公共職業訓練を終了した人を新たに雇用する社員の賃金の3分の1を1年間助成するものです。

例：年間450万円支給する人材を新たに5人雇った場合  
450(万円)×5(人)×1/3=750(万円)

※750万円が1年間助成されます

【問合せ・申込】雇用・能力開発機構岩手センター ☎625-5103

# 花育ては夢育て

「庭木に岩に灯ろう——そんな庭造りがどんどん少なくなってきたんです。で、このままでは私たち造園業の着地点が見えなくなってしまうと考えて、その打開のため全国のガーデニング関連の施設を回りました。」と、(株)共同園芸の社長、瀬川勲さん(二日町)はソフトな口調で語り出した。北は北海道の富良野、南は長崎ハウステンボスまで歩いた結果、オープンした総合ガーデニングスペースのビューガーデンはラ・フランス温泉館のすぐそば。お話はセンター施設の二階喫茶ルームだろうか。どうです、眺めがいいでしょう。私はここから見える

のが農の原風景のような気がするんです。洋ナシ畑から田園、遠くの間々まで見える窓からの景色は確かにその名にはじない。雑誌で活躍するガーデナーなどの講演会も開催し、この水分局の新たな発展の予感さえも感じさせてくれる。現在まだ完成していない施設(花の帯、岩手の野の花園など)があり、グランドオープンは二〇〇三年春だ。「この土地で、じっくり飽きのこない庭と花を育てていきたいですね——着地点を探すために作られた施設が、夢を創る施設になりつつあることを瀬川さんは気づいているのだろうか。」



美しい花だけでなく  
夢も咲かせるガーデニングショップ

## 町長メッセージ

### 「若者出会い支援センター」始動

最近、新聞報道で、韓国、米国、フランス、日本の四方国の中高生に対し行った意識調査の結果が掲載されていて、とても興味深く読みました。結婚について「必ず」と考えている生徒の割合が日本が二〇パーセントと四カ国中もっとも低く、社会に対する満足度、二十一世紀に寄せる期待感も最低だったことです。(財団法人日本青少年研究所結果から)希望に満ちているはずの二十一世紀を担う若者の意識の現状が、く然としました。

さて、町では今年度新たな事業として勤労青少年ホームに「若者出会い支援センター」を設置いたしました。現在町内で三十歳以上の未婚の男女は合わせて九百人を超え、特に男性は女性の二・六倍と深刻な状況にあります。昨年まで農業委員会の事業として行っていました。今や農業のみならず、企業種に及ぶ後継者不足は非常にデリケートで難しい問題を含んでいることから、町の重要課題と位置付け推進することになりました。

若者出会い支援センターでは毎月第二金曜日に相談日も設けているほか、積極的な出会いの場を提供し、若者が気軽に集うことができるようにと考えています。九月二十三日には若者の交流パーティー「胸キュン フェスタ2001」が開かれます。この企画は青少年ホームの自治会役員や会員などのボランティアスタッフが組織する実行委員会が企画し、新しい友達との出会いの場となるよう、準備を進めています。

百年後の子どもたちに、より良い環境を残し伝えようという、循環型まちづくりを進める町にとって、希望に満ち生き生きとした若者の創出こそ重要な課題と考えます。

(藤原 孝)

**編集後記** 好天に恵まれた環境探検隊同行取材も終わり、この号の編集作業が完了した翌々日には、いよいよ夏まつり。今年も誕生や結婚の記念花火の打ち上げが予定されています。雨にならないように、てるてる坊主でも作りましょうか。(佐藤)

### 【ご意見・情報は】

企画課「紫波ネット」情報係まで

【ホームページアドレス】

<http://www.town.shiwa.iwate.jp>

【メールアドレス】

[info@town.shiwa.iwate.jp](mailto:info@town.shiwa.iwate.jp)

【紫波ネット8月号】〈平成13年8月10日発行〉

発行◆紫波町

〒028-3390

岩手県紫波郡紫波町日詰字西裏23-1

☎672-2111

印刷/川嶋印刷株式会社